



最近ニュースでよく見るようになったウクライナ。皆さんはどれだけ知っているでしょうか？ウクライナの歴史を調べてみるとロシアとの深いつながりが見えてきました。(ウクライナの国鳥はコマドリで、国花はヒマワリです。)

## ウクライナってどんな国？

ウクライナはロシアの隣にある国で、国土の大半を豊かな平原や高原が占めており、小麦を中心とした農業が盛んです。また黒海に面した国で、黒海から海峡を抜けると地中海につながることから、クリミア半島を中心に軍事的拠点として利用された歴史もあります。

これらの理由からウクライナの国土は、様々な国や民族による支配戦争が繰り返されてきました。



国旗(左)と国章(右)

## ウクライナの歴史

### キエフ大公国(キエフ・ルーシ)

882年頃～1240年

### 支配戦争時代

1240～1917年

### ソ連編入時代

1917～1990年

### ウクライナ独立後

1990年～

ウクライナの首都であるキエフを中心に、現在のロシア(モスクワ周辺)・ウクライナ・ベラルーシの土地に栄えた国家。そのためこの3国は文化的祖先が同じとされ、切っても切れない繋がりがあります。現在のウクライナ国章はキエフ大公国朝の紋章に由来し、国旗に使用されている青と黄色が使用されています。

キエフ大公国は小国に分断され国力を失い、モンゴル帝国、ポーランド、スラブ人農民を起源とする武装集団・コサックなどに次々と支配される時代が続きます。最終的にキエフ大公国から分断された小国の1つ・モスクワ公国を起源とするロシア帝国に120年間支配されることとなります。

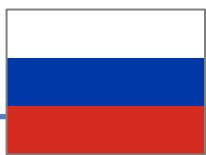
第一次世界大戦終盤にロシア革命によりロシア帝国が滅亡すると、ウクライナはドイツの力添えを得て独立を果たします。しかしロシア帝国に代わって成立したロシア共和国により1922年にソビエト連邦が成立、ウクライナはソ連に編入されました。形式的には独立国ですが事実上ロシア共和国に支配され、第二次世界大戦下ではドイツの侵攻により戦場になりました。

第二次世界大戦後もソ連の一国家として、アメリカ・イギリスを中心としたNATO(北大西洋条約機構)と敵対し、冷戦状態を深めていきます。

冷戦の終結とともにソ連が解体されると、ウクライナは名実ともに独立国となり、ロシアを中心とした他の旧ソ連国家とCIS(独立国家共同体)を結成します。

しかし国民の多くはロシアの影響力から脱し欧米諸国へ歩み寄りたいと思っていたため、クリミア半島やウクライナ東部に住むロシア人と対立していきます。

- 2004年：親欧米派の大統領が誕生し、NATO加盟の機運が高まる。
- 2010年：再度親露派の大統領に替わり、政情が不安定な状態が続くことに。
- 2014年：親欧米派による反政府暴動に対し、ロシアがクリミア半島の併合を宣言。またウクライナ東部もウクライナからの分離を表明し、大規模な内戦へ発展。以後何度か停戦合意が結ばれるも、断続的な戦闘が続く。
- 2018年：ウクライナはCISから脱退。ウクライナがNATOへの加盟を希望したため、ロシアからの圧力が強まっていく。
- 2022年2月：ロシアがウクライナに侵攻する。



### ロシアの国旗の歴史と意味

元はロシア帝国の国旗として1699年からソ連成立の1922年頃まで使用され、1992年のソ連崩壊後ロシア連邦の国旗として復活しました。白は高貴と率直の白ロシア人(ベラルーシ人)を、青は名誉と純潔性の小ロシア人(ウクライナ人)を、赤は愛と勇気の大ロシア人(現ロシア人)を意味すると言われています。この3色は汎スラブ色と呼ばれ、民族の共通の起源を象徴しています。